

水の大切さについて

私は、毎日本水を飲んでいません。私は、家で作られるお茶が苦手です。なぜかお茶が飲めなくて、いつも家でも、学校の水筒にも、水を入れて飲んでいません。そして、今の時期だと、みなさんも、私も手を洗いますよね。私はずっと、授業が終わった後でも、手が黒くなったり、授業が終わり悪くなったりすると、すぐに手を洗いに行ってしまう。さらに、学校から帰ってきて、リラククスするため、私はお風呂に入ります。お風呂に入る時でも、シャワーも使うので、すごく大量の水を使う事になります。みなさんも一日生活するために、水は必ず誰もがたくさん使うと思います。例えば、食べ物、おなべもカレーも水を使います。飲み物だって、お風呂も、しよつ器洗いだって、たくさんの水を使う事になります。

檀原市立光陽中学校 二年

福本 凜音

す。しかし、水が無く困っている国があるので。そこで今日は、水の大切さについて、考えて行きたいと思います。世界人口の半数以上が水道を使えるようになった今なお、六億六千三百万人もの人々が安心して飲める水が身近になく、「池や川、湖、整備されていない井戸などから水をくんでいます。」その半数近くがサハラ以南のアフリカ諸国に集中しています。多くの途上国では、水くみは子供達の仕事といわれており、サハラ以南のアフリカ諸国だけでも、三百三十万人を超え、子供達が、水の重さに耐えながら、毎日遠い道を歩き続けています。そして、疲れ果てた子供達には、学校に通う「時間も体力。」も残されていません。

毎日、八百人もの子供が汚れた水や不衛生な環境が原因で命を落としています。子供達の多くは、池や川、野ざらしの井戸など飲用に適さない水源に頼るしかなく、ようやく水源にたどり着いても、その水は多くの場合、泥や細菌、動物のふん尿などが混じった危険な水。浄水処理をしないまま飲むと抵抗力の弱い子供達は、下痢を起こしてしまいます。汚れた水を主要原因とする下痢で命を落とす乳幼児は、「年間二十万人・毎日八百人以上。」にもものぼっています。手に入る水の量が少ないため、身体や生活環境を清潔に保てなくなると、子供達は、「肺炎などさまざまな病気に感染しやすく」なります。つまり、水がないため、不衛生な環境になっているという事です。世界中の女の子や女性達が水くみに費やす一日たりの総計は二億時間だそうです。そこで、子供達の命と未来を守るユニセフの水支援が始まりました。ユニセフは、子供達が地域の中でいつでも安全な水を使えるように、世界中の村々や学校、保健センターなどに給水所を設置しています。給水所ができた地域では、下痢や病気が減り、手洗いなど

の衛生習慣が根づき、何より「子供達が目に見えて元気になってきている」そうです。こうした支援の他にも、私達にもできる支援があります。例えば、三千円の支援で汚れた水を安全な飲み物にする浄水剤七、0二五錠に変わります。五千円で下痢による脱水症から子供の命を守る経口補水塩七百四十八袋に変わります。このように私達にも人の命を守る事が出来るといふ事が分かりました。この話を通して私は、水が無くて困っている人達に比べて私達は恵まれているなと思いましたが。そして、これからはちよつとした時間の間でも、水の出しっぱなしに気を付けようと思いましたが。又、自分の力で困っている人を救えるなら、次からユニセフの募金に協力してみようと思いましたが。